

令和元年度鹿児島港中央港区開発推進協議会総会議事録

1 開催日時及び場所

(日時) 令和元年10月7日(月) 13:30~14:00

(場所) 鹿児島木材産業協同組合 事務所2階会議室

2 会員数及び出席者数

- ・ 会員数103人 (鹿児島市三号用地振興協議会41人、鹿児島機械金属工業団地協同組合11人、鹿児島木材産業協同組合25人、その他26人)
- ・ 出席者数74人

3 議事の内容

- ・ 定刻に至り、事務局担当者が開会を宣する。
 - ・ 柴立会長より開会の挨拶がなされた。
 - ・ 関係行政機関の来賓祝辞が行われた。
国土交通省鹿児島港湾・空港整備事務所 上原 副所長
鹿児島市都市計画部都市計画課 外園 主幹
 - ・ 議長については、規約により会長が行うこととなっていることから、柴立会長が議長席につき議事の審議に入る。
 - ◆ 第1号議題 平成30年度協議会活動実績
 - ・ 第1号議題について、議長が説明を求めたので、事務局員は別紙資料により平成30年度活動実績について説明を行った。
 - ・ 総会、理事会及び研修会についての活動内容について報告を行い了承された。
 - ◆ 第2号議題 令和元年度活動計画(案)について
 - ・ 第2号議題について、議長が説明を求めたので、事務局員は別紙資料により令和元年度活動計画(案)について説明を行った。
 - ・ 平成30年度と概ね同じスケジュールで、今後、理事会、総会及び研修会を行いたいと報告がなされた。
 - ◆ 第3号議題 理事選任に(2人変更)について
 - ・ 第3号議題について、議長が説明を求めたので、事務局員は別紙資料により理事の変更について説明を行い、了承された。
 - ◆ その他について
 - ・ 柴立鉄平県議会議員の顧問就任について、事務局員から報告がなされた。
 - ・ 中央港区を取り巻く最近の動きについて、事務局員から説明がなされた。
- 以上で総会での審議を終了したので議長より閉会を宣した。

総会終了後、以下の講演会及び開催され、多くの会員が参加されました。

◎ 講演会 「鹿児島港中央港区における港湾の計画と現状について」

14:00 ~ 14:40

講師 鹿児島県港湾空港課 北園 港湾対策監

鹿児島港の概要、臨港道路、クルーズ船の受入環境整備、旧木材港区の埋立等について、判りやすい資料を基に講演していただきました。

◎ 質疑応答 14:40~15:20

(Q1) 鹿児島港臨港道路について、他事業のケーソンを運び出すことから、施工時期が2022年度となっている。橋梁部分が遅くなるのはわかるが、陸上部分は先行して着手できないのか。

(A) 他事業のケーソン製作に南港を活用し、運搬用の船が往来するため、橋梁部分に着工できない。整備期間が4年延びるのは橋梁部分であり、ほかの部分は予算があれば実施する計画である。

(Q2) 旧木材港区の西南側角地に防潮堤があり、埋め立てが計画されている箇所について、道路も狭く見通しも悪い。埋め立てが始まると多くの工事車両も往来すると思うが、見通しが悪く危ないので、防潮堤を撤去してほしい。

(A) 埋め立てが完了した時点で検討したい。現状は海面に面し、海岸保全区域となっているため、議論が必要である。

(Q3) 貝を保護するため、河川を残すようになっているが、止壁を作らないと埋め立ては出来ない。止壁はいつから着手するのか。

(A) 木材港の南東側から埋め立てる。汚濁防止膜を使いながら埋め立てる。護岸については、埋め立てがある程度進捗してから着手する。埋め立て予定部分にも貝がたくさん生息しているので、このような工法を採りたい。貝への影響を少なくするため、大学の先生からアドバイスをいただいた。

(Q4) 埋め立てが、多目的交流施設敷と多目的交流広場敷とに分かれるが、どのように埋め立てを行うのか。

(A) 多目的交流施設敷を先に仕上げるイメージで進めていきたい。

(Q5) マリーナを造ってほしい。残りの4haを最低でもマリーナにしてほしい。

(A) 埋め立て後の土地利用も具体的には決まっていない。今後いろいろな意見を聴きながら検討していきたい。

(Q6) 東開町から埋立地に直接行けるように橋梁を作るのか。

(A) 埋め立て地の道路敷部分について、利用計画図では行き止まりとなっているが、利用上よくないので、将来的には東開町から橋梁で連絡することになると考える。

(Q7) 南港の測量に関して関係者を集めて協議があったが、その時橋梁、沈埋函等4つほどの工法について提案があった。客観的に考えて沈埋函が最も安くなると思う。ほかの工法は全て補償費が必要ではるかに割高になると思う。結局橋梁に決まったが、これまで明確な計算結果等具体的な説明はない。また、移転先についても説明

がなされない。

早く臨港道路を作ってほしいが、なぜ橋梁なのか。船が通れない、工事費も高くなるのになぜ橋梁なのか、具体的に説明してほしい。

(A) 持ち帰って回答したい。

(Q8) 浮き棧橋の活用について、交通渋滞の面から桜島フェリーや鴨池フェリーを活用できないか。多いときには、1日バスが70台ほど来て混むので、フェリーを使ってバスを移動できないか。大隅半島へも移動できる。

(A) 鴨池フェリーや鹿児島市の船舶局とも話をしている。浮き棧橋は、現状では高速船は使用可能であるが、フェリーは船が大きく、護岸でなければ難しい。船を持っているなんきゅうや城山ストアとも意見交換をしているところ。大隅方面については、先日共進組が中心となって鹿屋港へ実証運航したところ。

(Q9) マリーナ整備について、民間資金を活用できないか。鹿児島湾は世界中のヨットマンが興味を持っているという話を聞いている。資金を出したいという人もいるようだ。

(A) 方法論としてはあると思う。どこに作るかは街づくりの観点からも検討すべきと考える。

(Q10) マリンポートから金属団地や木材団地へ徒歩で向かわれる外国人の方々が多くなってきている。マリンポート周辺の道路改良等も必要であるが、歩道整備や既存の公共インフラへのアクセス、交通体系の情報提供等も考えてほしい。

現状のバスや海上輸送だけでなく、歩く人も多くなるので、整備計画の中に織り込んでほしい。

(A) 国、県、市と一緒に考えてほしい。